

## 2025年度活動報告

和白干潟を守る会事務局

### 2025年度のまとめ

和白干潟を守る会の環境保全活動は、37年を過ぎました。大切な和白干潟の自然を未来の子どもたちに残すために、これからも環境保全活動を続けていきます。2025年度は、11月に開催した第37回和白干潟まつりは、晴れて暖かく約480人の参加があり、楽しく交流ができました。5月に開催した「和白干潟の自然観察ガイド講習会」は「和白干潟の自然と漂着ごみについて」のテーマで楽しく学習できました。鳥類調査とクリーン作戦は無事に続けることができました。クリーン作戦には企業や学生が継続して多く参加されました。和白干潟の自然観察会は、コロナの頃から減っています。今後は観察会に来てくれる学校や保育所などが多くなることを願っています。昨夏は猛暑が続き、アオサの発生が少なかったです。

守る会の役員や事務局が高齢化しており、新しい会員や若い会員が役員や事務局を務めてくれることを願っています。ラムサール条約に登録されるためには、国指定鳥獣保護区の「特別保護地区」に指定されなければなりません。和白干潟はまだ国指定鳥獣保護区の普通地区のままです。2023年7月と9月に「和白干潟のラムサール条約登録」を求める要望書を福岡市長に提出しました。回答書が届きましたが、「ラムサール条約登録は将来的な課題である」との回答でした。今後も和白干潟がラムサール条約に登録されるように、活動を続けていきたいと思います。2025年度には、環境省福岡事務所に電話で和白干潟のラムサール条約登録についての働きかけをしましたが、余りやる気のないお返事でした。

守る会が呼びかけた和白干潟の集水域の保全活動「山・川・海の流域会議」の活動では、立花山・唐原川・和白干潟の保全グループが連携して保全活動を続けています。2025年1月に新春講演会「和白干潟における漂着ごみの現状と対策」を行い、5月には春の自然観察会「和白干潟を歩こう」を行いました。10月の「唐原川お掃除し隊」は雨天中止になりました。

和白干潟を守る会の活動への企業や学校の支援としては、「クリーン作戦」への参加や観察会の企画、寄付等があります。九州産業大学は特別講義を企画され、クリーン作戦にも継続的に参加頂き、多彩に協力いただきました。ユネスコ協会連盟やダンロップグループなどは、和白干潟の観察会とクリーン作戦を企画し、寄付もいただきました。あいおいニッセイ同和損保からは寄付をいただきました。イオン環境財団より助成金をいただきました。

2025年度もよく活動できたと思います。今冬は、ミヤコドリは41羽が和白干潟に来ており、クロツラヘラサギは最大22羽を確認しています。ツクシガモは最大116羽を確認しました。シギやチドリでは、シロチドリが18羽、ダイゼンが3羽、ハマシギが75羽、ミユビシギが2羽をカウントしました。和白干潟がもっともっと回復してほしいと願っています。沿岸の植物では、ハマボウの木が増えてきて海の広場や和白方面迄大きく育ってきています。ハマボウに押されたのか、ウラギクやハママツナは少し少なくなったように感じます。

2026年度も和白干潟を守る活動に、皆さまのご協力をお願いします。和白干潟がぜひ「ラムサール条約登録湿地」となるように希望を持ってがんばりましょう！自然豊かな和白干潟を、みんなの力で未来の人たちに渡したいと思います。

和白干潟を守る会 代表 山本 廣子

## 活動方針に基づく報告とまとめ

1. 和白干潟環境教育プログラムによる「自然観察会」、「クリーン作戦と自然観察」「和白干潟まつり」「学習会などの企画」を通して、多くの市民、特に若い世代や子どもたちに和白干潟の自然の大切さを認識してもらい、自然保護の気運を高める。

### 1-1. 和白干潟観察会

2025年度の観察会は少なかった。1月に観察会案内状の送付を行い、観察会グループミーティングは、12月に行った。観察会の依頼を受けると、事前に下見・打合せを行い、観察会に来る学校等でパンフレットやビデオを使った事前学習をしてもらった後、観察会を実施した。

2025年度中（1月～12月）の和白干潟自然観察会は、年間5回で、延べ205名の参加があった。保育園では、香椎保育所1回49名、学校関係からの依頼では、小学校1回（和白小学校）107名、中学校1回（久山中学校）14名であった。

年度	団体区分	実施回数	延べ人員
2025	保育園	1	49
	小学校	1	107
	中学校	1	14
	高校	0	0
	大学	0	0
	一般	2	35
	合計	5	205

### 1-2. 和白干潟の自然観察ガイド講習会

5月18日（日）九州産業大学教授の宗像優氏を講師に招き、「和白干潟の自然と漂着ごみについて」と題して第27期和白干潟の自然観察会ガイド講習会が実施され、17人の参加があった。講義では、漂着ごみについて講義され、漂着ごみは、国民生活に伴って発生するごみが海岸などに漂着したもので、山・川・海へと繋がる水の流れを通じて海岸に漂着したものであるため、漂着ごみを減らすには、海岸清掃だけではなく、河川の清掃や流域の方々への啓発も必要と講演された。

### 1-3. 和白干潟のクリーン作戦と自然観察（毎月第4土曜日）

毎月第4土曜日午後3時から5時まで（但し、真夏と真冬は時間を短縮した）海の広場から唐原川河口、和白4丁目の範囲をその時の状況に合わせて清掃し、同時に自然観察、水質や砂質調査を実施した。

定例のクリーン作戦は、年間12回、特に今年はアオサの発生が少なく主に草木類と人工ごみだった。九産大のゼミや個人、企業からの参加が多かった。定例のクリーン作戦では、参加者は404名、その内守る会人数は164名だった。その他は186名だった。

年度	活動項目	回数	延べ人数 (人)	ごみの量 (袋)
2024	クリーン作戦	11	370	603
	その他	4	278	60
	合計	15	648	663
2025	クリーン作戦	12	404	554
	その他	3	186	30
	合計	15	590	584

増加割合(%)	100.0%	91.0%	88.1%
---------	--------	-------	-------

全体では590名の参加があった。ごみの内訳は、可燃ごみ：531袋、不燃ごみ：23袋で、合計で554袋だった。粗大ごみでは、今年もタイヤ、浮き、寝具、電化製品、流木など、様々な物があった。回収ごみは減少傾向だった。定例のクリーン作戦では、企業や九州産業大学生などの参加があった。

- ・4月26日（土）のクリーン作戦は「干潟を守る日」と「春のビーチクリーンアップ」参加
- ・6月28日（土）のクリーン作戦はラブアースクリーンアップ参加で実施した。
- ・9月27日（土）のクリーン作戦は、「国際ビーチクリーンアップ」に参加しゴミデータ調査を実施した。ごみ調査には九州産業大学宗像ゼミの学生や企業からの協力があった。ゴミの内容では依然プラスチック類のゴミが多かった。
- ・9月27日（土）及び10月25日（土）のクリーン作戦は「福岡県1万人のクリーンアップ大作戦」に参加して実施した。

## 1-4. 第37回和白干潟まつり

第37回和白干潟まつりを11月23日、海の広場にて開催した。今年は晴れて暖かく、お天気に恵まれ最高のまつり日和だった。残念なことに3連休の中日で好天ということもあり、いろいろなイベントに人が分散し、参加者は少なめの約480名だった。

開会式では、ラムサール条約について説明してから、ラムサール宣言を力強く宣言し採択された。当日配布のチラシにラムサール宣言を載せておく必要があった。

野鳥観察(45名)、自然遊び(39名)、植物観察(13名)、干潟の生き物観察(34名)と今年も多くの参加者で賑わっていたが、野鳥観察では説明をしてくれるボランティアスタッフが足りなかった。

ステージ企画では、今年不参加の九州青年合唱団の代わりに、守る会有志が「和白のうた合唱団」を結成し「和白の春・ミヤコドリ」を披露した。子ども達参加の「わらべ歌」では歌ったり踊ったり、ギターの弾き語りに合わせてブース内で口ずさむなど、楽しくまつりを盛り上げた。

毎年の検討課題だったマイクスピーカーを購入設置したことで、ブースの隅々まで声が届き、お知らせ・進行も出店者の方々へスムーズに伝えることができた。

今年の出店者は13店、弁当やサンドイッチなど昨年より多めに用意してもらったが、完売できて良かった。前日の準備から当日の片付けまでスケジュール通りに進めることができ、全員で協力して楽しいまつりを行うことができた。

まつり自体は、長年の積み重ねで準備・進行をスムーズに運べるようになったが、集客の面では毎回苦労している。私たちに出来ることは続けているが、SNSの活用など課題は多い。

収支は、収入119,861円、支出100,231円、19,630円の黒字決算となった。

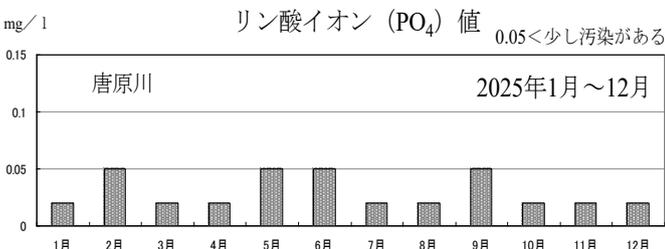
## 2. 和白干潟の大切さと保全の必要性を広く社会に訴えるため、和白干潟を取り巻く自然環境の変化について、干潟及びその周辺の生物の調査、漂着ごみ調査などの活動を継続し、調査結果を公表する。

### 2-1. 調査

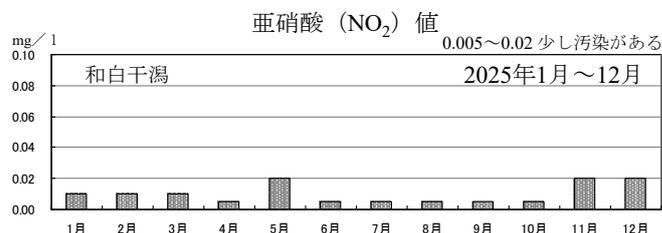
調査項目としては毎月実施する水質調査及び砂質調査、9月の国際ビーチクリーンアップ参加でのごみ内容調査のほか、水鳥調査などを実施した。水質に関しては唐原川と和白川を調査地点に加えて調査を行っている。

#### (1) 水質調査(毎月1回実施)

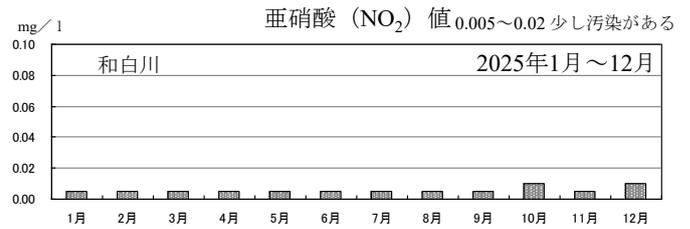
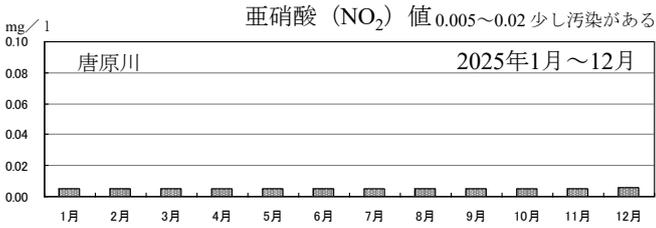
①リン酸イオン値( $PO_4$ )は海水中のリンの状態を示すもので0.05以下は「きれいな水」、0.05~0.2は「少し汚染がある」状態であることを示す。和白干潟では年間を通して0.05以下であり、「きれいな水」の状態であった。唐原川も和白川も年間を通して0.05以下であり、きれいな水の状態であった。



②亜硝酸値( $NO_2$ )は海水の窒素の状態を示すもので、0.005以下は「きれいな水」、0.005~0.02は「少し汚染がある」、0.02~0.05は「汚染がある」状態を示す。・和白干潟は年間を通して0.02以下であり「きれいな水」の状態であった。

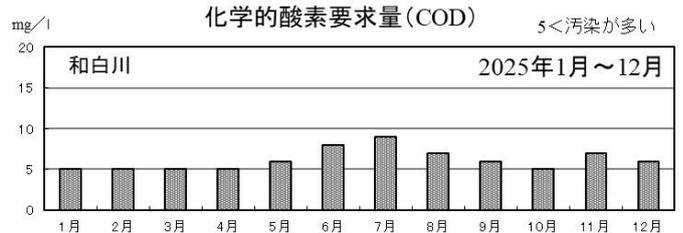
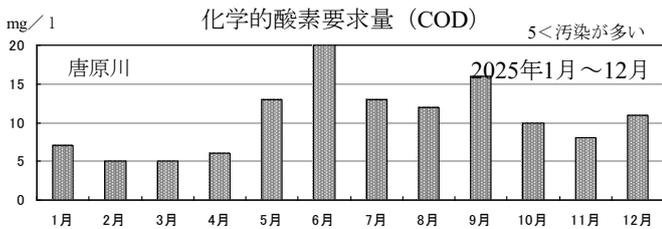
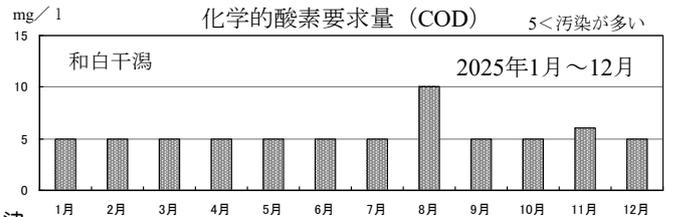


- ・唐原川は年間を通して0.005であり、「きれいな水」の状態であった。
- ・和白川は10月、12月が0.01で「少し汚染がある」状態、その他の月は「きれいな水」の状態であった。

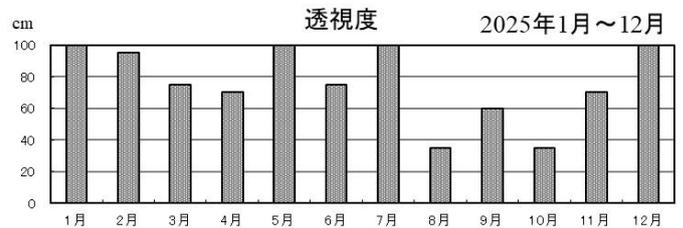


③化学的酸素要求量 (COD) は水の汚れ具合を示すもので、2以下は「きれいな水」、2~5は「汚染がある」状態、5~10を「汚染が多い」としている。

- ・和白干潟では8月が10、11月が6で「汚染が多い」状態、その他の月は、年間を通して5以下であり、「汚染がある」状態である。全体としては、通常の状態である。
- ・唐原川や和白川では年に何度か5を越えることがあり、和白干潟に比べると汚れが多い。和白川と唐原川を比べると唐原川の方が汚れが多い。



④透視度については、2015年度からは透視度計の100cmまで見ることが多く改善傾向にある。しかし、2022年度は平均で約40cmと悪化したが2023年度は平均65cm、2024年度は約70cm、2025年度は約76cmと改善している。

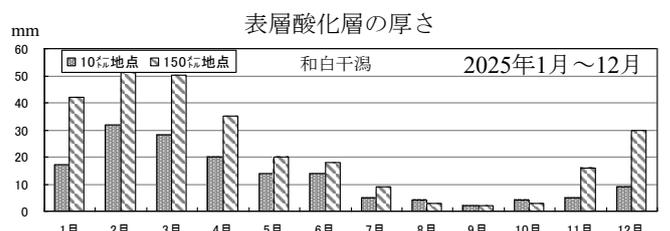
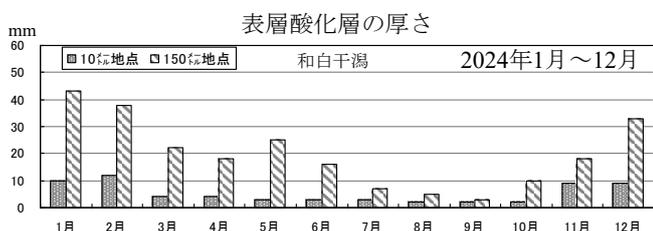


## (2) ごみ内容調査

9月の国際ビーチクリーンアップにて、干潟に漂着したごみを回収して内容調査を実施した結果、31種類のごみが回収された。収集したごみの中で、特に多かったのは今、社会で問題となっているプラスチックごみの「ペットボトル」で、その次に多かったのは「飲料缶」だった。調査には九産大宗像ゼミの方々の協力があった。調査データは干潟通信やホームページで公表していく。

## (3) 砂質調査

和白干潟・海の広場前10㍍地点と150㍍沖合地点の表層酸化層の厚さと還元層の黒色度を測るものである。表層酸化層が厚いほど干潟が健康な状態にあることを示す。



上のグラフは、2024年度と2025年度の表層酸化層測定結果である。沖合いの方が厚い傾向にあるが両年

度とも浜辺側の表層酸化層の厚さが薄い。

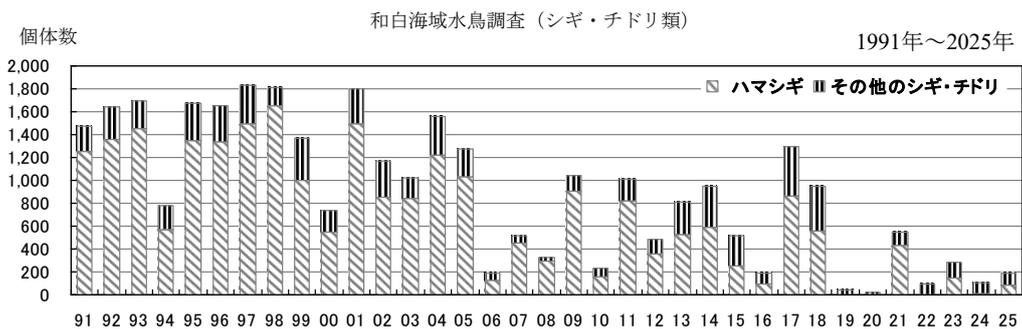
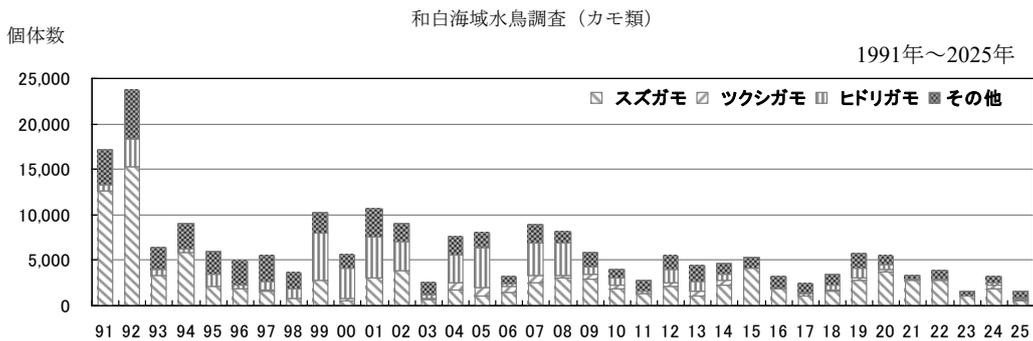
(4) 鳥類調査

2025 年度は感染症予防のために、調査員は集合せずに各調査ポイントに分かれて調査した。調査記録を写真とともに送ってもらい集計した。

鳥類調査では以下の調査に協力した。

① 1月 和白海域水鳥調査（日本野鳥の会福岡支部）2025 年 1 月 13 日に実施。

和白海域の水鳥の越冬数の内、カモ類は前年の 3,197 羽より減少し 1,560 羽、最多の 1992 年の 23,719 羽と比べて約 15 分の 1 だった。シギ・チドリ類は前年の 110 羽より増加し 211 羽。ハマシギは 80 羽、シロチドリが 93 羽だった。90 年代の約 1,600 羽と比べて約 7 分の 1 に減少した。調査参加者は 6 名だった。



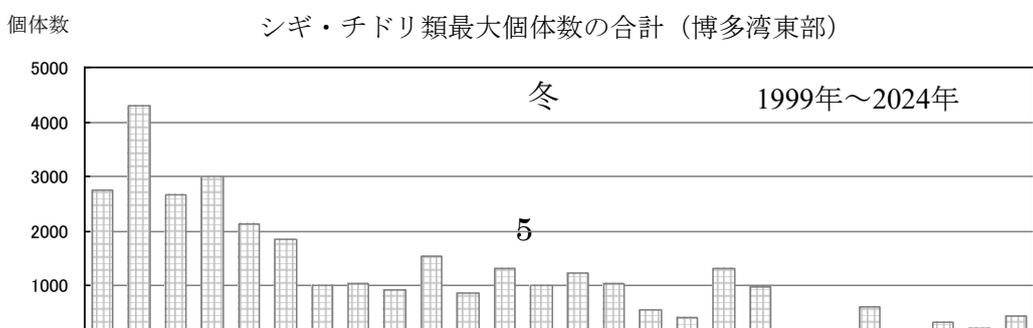
② 環境省モニタリングサイト 1000 シギ・チドリ調査（環境省・NPO 法人バードリサーチ）

冬期：2024 年 12 月、2025 年 1～2 月 今津と博多湾東部で各 3 回実施

春期：2025 年 4 月～5 月 今津と博多湾東部で各 3 回実施

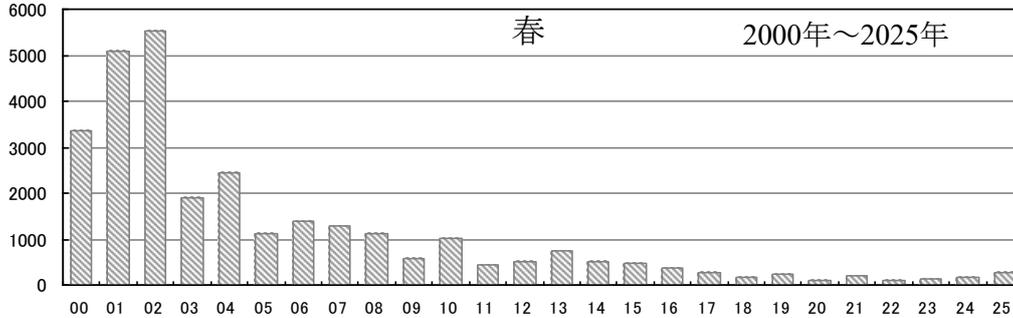
秋期：2025 年 8 月～9 月 今津と博多湾東部で各 3 回実施

博多湾東部海域のシギ・チドリ類最大数合計は、2024 年度冬期は 2000 年の 4,300 羽から 443 羽に減少し(昨年 219 羽)、2025 年春期は 2002 年の 5,509 羽から 282 羽に減少(昨年 159 羽)。2025 年秋期は 2000 年の 2,271 羽から 112 羽に減少した (昨年 168 羽)。希少種では、冬期と春期と秋期でクロツラヘラサギは最大 15 羽 (昨年 26 羽)、ヘラサギは最大 3 羽 (昨年 7 羽)、ツクシガモ 221 羽 (昨年 258 羽)、ズグロカモメ 1 羽 (昨年 1 羽) を確認した。



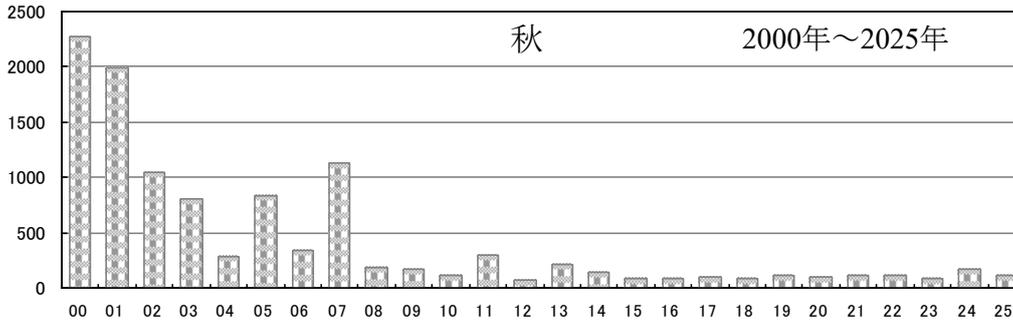
個体数

シギ・チドリ類最大個体数の合計（博多湾東部）



個体数

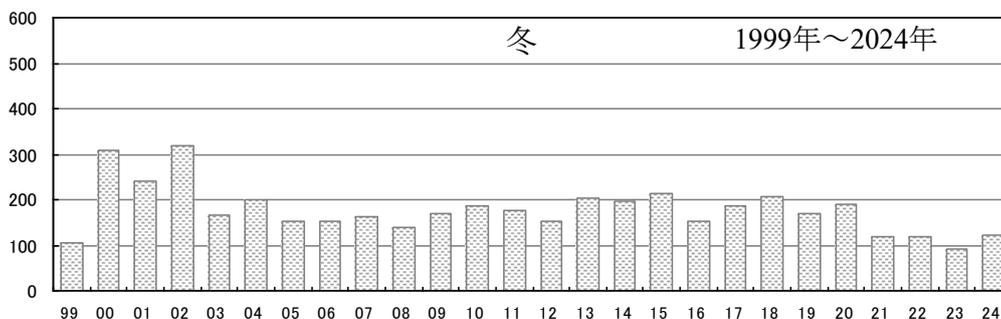
シギ・チドリ類最大個体数の合計（博多湾東部）



今津のシギ・チドリ類最大数合計は、2024 年度冬期は 2002 年の 319 羽から 121 羽に減少し（昨年 90 羽）、2025 年春期は 2003 年の 538 羽から 123 羽に減少（昨年 219 羽）、2025 年秋期は 2005 年の 450 羽から 109 羽へ減少（昨年 104 羽）。希少種では、冬期と春期と秋期でクロツラヘラサギは最大 13 羽（昨年 8 羽）、ヘラサギは最大 4 羽（昨年 7 羽）、ツクシガモ 119 羽（昨年 82 羽）、ズグロカモメ 9 羽（昨年 12 羽）を確認した。

個体数

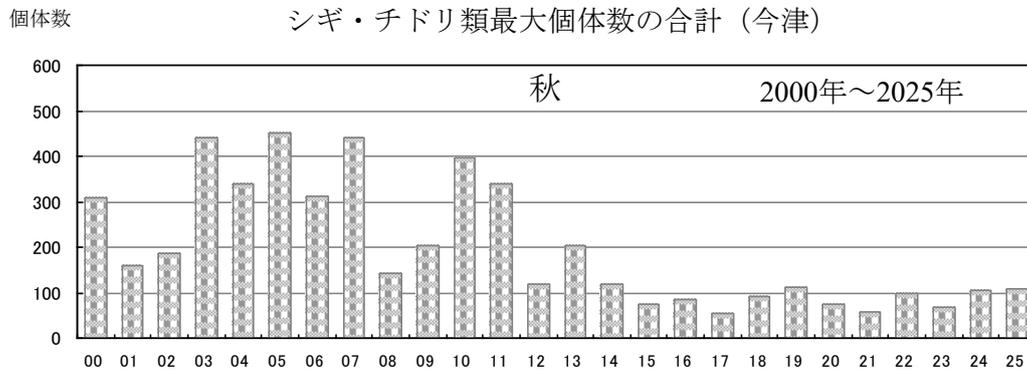
シギ・チドリ類最大個体数の合計（今津）



個体数

シギ・チドリ類最大個体数の合計（今津）





（※博多湾東部と今津のグラフの個体数については単位が違うことに注意！）

この25年で博多湾東部の鳥類は大きく減少した。2016年と2017年冬期のシギ・チドリの個体数が少し増加したが2018年春期以降はまた減少し、2020年冬期は少し回復したが、少ない状態が続いている。

今津のシギ・チドリは減少状態であるが、博多湾東部に比べて減少が少ない。博多湾東部は博多湾の人工島などの開発の影響を大きく受けており、それに比べて今津は開発の影響が少ないと思われる。

2025年の鳥類調査参加者は、毎回9名～12名、延べ93名が参加。また一斉調査以外にも個人で調査を行った。鳥類調査担当者が高齢化し、調査員が不足している。車の運転者も不足しており、調査協力者を求めている。

※ミヤコドリは2025年8/23に6羽初認、10/2に8羽、11/7に41羽（過去最大数）を観察し、越冬している。（昨年度最大数記録37羽） クロツラヘラサギは2025年9/13に1羽初認、10/21に8羽、11/6に22羽を観察（最大数）、（昨年度最大数16羽）その後も飛来しているが、飛来する日が少ない。ツクシガモは11/21に1羽（初認）、12/9に94羽、12/30に116羽（最大数）、以降も越冬している。（昨年度最大数123羽）

3. 貴重な鳥類をはじめとする生物多様性に富む和白干潟を「ラムサール条約登録地」とするための取り組みを強化する。博多湾の自然を壊す人工島などの公共事業には厳しい監視と関心を持って対処する。今ある自然を壊さないこと、壊れた自然は元の自然に戻すことを目指す。

和白干潟の生態系を守るために、山・川・海の流域連携に取り組み、地域の自然再生への取り組みを進める。和白干潟を守る会の活動をより広く知ってもらい、活動への参加者、賛同者を増やすために広報活動を強化する。

### 3-1. ラムサール条約登録をめざし、行政、議会、市民に向けた活動に取り組む

第37回和白干潟まつりで、ラムサール宣言を表明する事が出来た。

### 3-2. 福岡県・福岡市等の環境政策、公共事業に対し、情報収集、学習、意見交換、提言に努める

#### (1) 福岡県・福岡市等の政策についての取り組み

- ① 「ラブアースクリーンアップ2025」へ協賛金10,000円を振り込んだ。
- ② 「福岡市のマスタープランで博多湾の開発や埋め立て計画の現在と今後について」の説明会を開催。
- ③ 和白干潟のクリーン作戦が「福岡県の1万人のクリーンアップ大作戦」に参加した。
- ④ 福岡市「あすみん」のホームページに「クリーン作戦」や「和白干潟まつり」等のお知らせを掲載してもらった。
- ⑤ 福岡県のホームページに「和白干潟クリーン作戦のボランティア募集」を掲載してもらった。

#### (2) 福岡市との連携

##### ① 「和白干潟保全のつどい」の定期開催

福岡市港湾空港局環境対策課や自然保護団体などと連携し、「和白干潟保全のつどい」を毎月1回定期的に開催している。本年度は、7月に「和白干潟の生きものやハマボウを見る会」、11月に「アオサのお掃除大作戦」（9月に予定されていた分は雨天のため中止）、11月に「バードウォッチング in 和白干潟2025」が開催された。

##### ② 「ラブアースクリーンアップ」

6月28日にラブアースクリーンアップ2025参加のクリーン作戦を行った。

##### ③ 「あすみん」福岡市HPにクリーン作戦などのイベントを掲載

### 3-3. 「山・川・海の流域会議」の他団体との流域連携について

1月の新春講演会は「和白干潟における漂着ごみの現状と対策」と題して、九州産業大学の宗像優教授にプラスチックごみを始めとする海洋ごみの問題について講演していただいた。春の自然観察会は和白干潟で実施した。海の広場からアシ原を通り、唐原川河口まで歩いた。当日は一般参加もあり、大変充実した観察会となった。

第13回「唐原川お掃除し隊」は初めて雨のため中止となった。今年は九州産業大学の学生に呼び掛け、場所も九州産業大学側での清掃活動を企画し、久しぶりの多くの参加者が見込まれていたが、雨の為中止することとなった。

### 3-4. 活動への参加の強化について

ボランティア募集には引き続き力を入れており、気軽に参加していただけるよう、HPや通信、あすみんHP、福岡県のHPなどを通じて情報発信を行っている。クリーン作戦の参加人数は増加傾向にある。会員状況については、個人会員が3名減少したものの、団体会員は1団体増加した。

### 3-5. 広報の強化について

#### (1) 和白干潟通信・ホームページ・リーフレット類

##### ① 干潟通信

和白干潟通信は6名で編集を行っている。1、4、7、10月にそれぞれ152、153、154、155号を作成し、5000部印刷し、発送や配布した。干潟通信は（公財）イオン環境財団の助成金を受けて、ロータリー印刷（株）で印刷した。配布先は、会員、マスコミ、行政関係、公民館、大学、和白干潟付近の家庭、クリーン作戦や自然観察会参加者、ホテル、郵便局等。

② ホームページは、3名が分担し編集している。

③ 「クリーン作戦と自然観察のお知らせポスター」は、公民館、郵便局、周辺大学（福工大、九産大、福岡女子大、令和健康科学大学）、銀行、コミセン和白、老人福祉センター（福岡100プラザ東）などにも掲示依頼している。

#### (2) その他

##### ① イオン「幸せの黄色いレシートキャンペーン」への参加

イオン香椎浜店で、毎月11日にボランティア団体支援のイエローレシート投函を呼びかけるキャンペーンに参加し18年目となった。レシートの買い上げ金額の1%相当額が団体に寄付され、4月には1年間のギフトカードの寄贈（56,500円）があった。毎月2名が参加をしている。

### 3-6. 講演活動

山本代表が講演活動を行った。

12月 九州産業大学特別講義「和白干潟の自然と私たち」59名の参加。講義資料を読んでミニッツペーパー（課題）提出数＝特別講義参加者数：80名

### 3-7. 情報の発信：新聞や雑誌、他団体の会報等に鳥情報、和白干潟の紹介を発信

- ・くすだひろこきりえ展「和白干潟散歩」レストラン「花もも」にて（5/1～5/31）開催し、和白干潟のパンフレットや通信を配布した。
- ・雛祭りハマグリ店頭調査2025に参加した。
- ・日本野鳥の会福岡支部総会に参加した。
- ・クリーン作戦お知らせの掲載願いを新聞4社に送付した。
- ・和白海岸探鳥会報告を作成して送付した。
- ・シギ/チドリ調査報告を作成して送付した。
- ・イオン環境財団SNS投稿申請書に「和白干潟まつり参加者募集」「守る会会員募集」「クリーン作戦案内」を書きこみポスターや写真データとともに送付した。
- ・日本消費者連盟編集長を和白干潟に案内した。

### 3-8. 取材協力：新聞社、テレビ局、雑誌などからの取材に協力

- ・ミヤコドリ、クロツラヘラサギ、ツクシガモの飛来について各新聞社に情報提供した。
- ・松本悟さん企画の和白干潟のコラム「和白干潟の渡り鳥」へ原稿を送付した。
- ・秋道智彌さん編集の「海と陸のはざま：アジア・太平洋の干潟文化を探る」へ原稿ときりえカットを送付した。
- ・福岡工業大学3年生から和白干潟を守る会の活動についての質問をメールで回答した。
- ・福岡のFMラジオ局「LOVE FM」で和白干潟まつりのインタビューを受けた。

### 3-9. 対外団体との交流活動、協力・参加活動

#### (1) 日本野鳥の会福岡支部

毎月1回「和白海岸探鳥会」に、お世話係で協力している。

#### (2) JAWAN、JEAN

① 「2025 干潟・湿地を守る日」に参加

② JEAN「春のクリーンアップ」と「国際海岸クリーンアップ」

4月26日、9月27日に参加

#### (3) 日本自然保護協会

日本自然保護協会に和白干潟クリーン作戦の年間スケジュールを送り、毎回情報ナビに掲載された。

#### (4) グリーンコープ生協ふくおか福岡東支部

第37回和白干潟まつりで共催した。

第1～3回干潟まつり実行員会にも参加して頂いた。

#### (5) 福岡市ボランティア交流センター「あすみん」

HPなどへの情報提供を継続し、ボランティアに登録した学生などがクリーン作戦に参加している。

#### (6) 蒲生を守る会とは 機関紙交流を続けている。

(7) 「生物多様性のための30by30アライアンス」では、定期的に配信されるメールマガジンを共有している。

(8) 日本ユネスコ協会連盟 未来遺産運動ニュース及び、社会貢献支援財団に定期的にイベント情報・活動報告を提供している。

### 3-10. 「和白干潟を守る会」の運営に関して

#### (1) 定例会議・総会

原則毎月第4土曜日に守る会の事務所で「定例会議」を開催。2月は「総会」を開催し、同日に臨時定例会議を開催した。定例会議では会の活動に関する報告、予定を共有し、重要な事項は全員で意見交換して決定した。今年も一度も中止になることなく毎月開催された。出席者は平均で約12名だった。2月は「総会」を開催し、1年間の活動のまとめをした。

#### (2) 事務局体制と役割分担

守る会の象徴である「ミヤコドリ」を会鳥とし、その下に代表、役員、各イベントのまとめ役などの事務局メンバーが配置されている。この事務局体制は、会の活動を円滑に進めるために欠かせないものである。

会の活動においては、定例会議に出席している事務局メンバーができるだけ様々な活動を分担することにより、個々の負担が偏らないように配慮している。これにより、メンバー全員が積極的に参加でき、効率的に活動を進めることができている。

しかし、平日に行われる活動が多いため参加できるメンバーが限られているのが現状であり、役割分担が一部の個人に集中し負担が大きくなってきている。そのため、作業の分散化や業務量の縮小についても検討を進めている。今後は新規会員の勧誘にも引き続き取り組み、多様な視点や人材を迎えることで、活動の充実と持続可能な運営体制の構築を目指す。

#### (3) 助成

・イオン環境財団から助成を受けた。

#### (4) 寄付

①イオン九州(株)より「幸せの黄色いレシートキャンペーン」でイオンギフトカードの寄付をいただいた。

②一般財団法人 未来 2016 より寄付金をいただいた。

③あいおいニッセイ同和損保より寄付金をいただいた。

④お菓子のアトリエカノンより寄付をいただいた。

#### (5) 応募と受賞

「令和 7 年度ふくおか共助社会づくり表彰」に応募したが選外だった。

#### (6) 2025 年度末の新規会員

個人：9 名、団体：1 団体

#### (7) 2025 年度末会員数（新規会員含む）

個人会員：193 名      団体会員：13 団体

### 3-11. パンフレット類の在庫（2026 年 1 月現在）

- ・和白干潟を守る会リーフレット                    3,160
- ・和白干潟の自然案内（和文）                    50（今年度に増刷予定）
- ・環境教育シリーズⅠ（環境教育プログラム）      2,521
- ・環境教育シリーズⅡ（水鳥、底生生物、植物図鑑） 9,200
- ・和白干潟観察マップ・年間スケジュール表      毎年印刷
- \*和白干潟を守る会封筒                            5,000
- ・ラムサール条約と和白干潟                        126
- ・未来につなごう和白干潟～和白干潟を守る会 20 年のあゆみ      5
- ・未来につなごう和白干潟～和白干潟を守る会 30 年のあゆみ      667
- ・四季の和白干潟の自然Ⅰ                        1,066
- ・四季の和白干潟の自然Ⅱ                        9,650
- ・和白干潟の自然案内（英文）                    401
- ・環境教育シリーズⅡ（英文）                    502
- ・環境教育シリーズⅡ（韓文）                    103

### 3-12. その他

- ・海の中道海浜公園委託の鳥類調査に協力（毎月 1 回）5 名